



会員企業を訪ねて

「省・小・精の技術」に宿る挑戦

セイコーエプソン株式会社

記事作成

学生会員 津田 樹 富山県立大学 工学研究科
 広報委員 伊東 聡 富山県立大学

取材日：2025年3月27日

1. はじめに

春の陽気に包まれる3月下旬、長野県諏訪市にあるセイコーエプソン株式会社の創業記念館とものづくり歴史館を、学生の津田と広報委員の伊東で訪問しました。今回の見学に関して、同社の腰原部長、土屋課長にご対応いただきました。年度末のお忙しいタイミングでしたが、取材にご対応いただきましたこと、感謝申し上げます。図1は創業記念館前での集合写真です。



図1 創業記念館前にて
 (左から土屋氏、腰原氏、津田、伊東)

2. 会社概要

セイコーエプソンの前身である有限会社大和工業は1942年に創立され、当初は機械式時計の部品製造からスタートしました。1959年には第二精工舎（現・セイコーインスツル株式会社）から諏訪工場を譲り受け、社名を株式会社諏訪精工舎に改めます。その後、1968年には世界初となる小型軽量のデジタルプリンタ「EP-101（図2）」を発売しました。これをきっかけに、後継機種の開発・販売を通じてプリンター事業を急速に拡大しました。1975年には「EPの子供たち(EP's son)」というコンセプトから「EPSON」というブランド名を制定、1985年に諏訪精工舎とエプソンが合併し、現在の社名である「セイコーエプソン株式会社」が誕生しました。

本社は長野県諏訪市にあり、国内20社、海外60社以上

のグループ会社を傘下に置いています。主な事業内容は、プリンター事業、液晶プロジェクター事業、産業ロボット事業、マイクロデバイス事業、ウォッチ事業の5つで、創業以来、セイコーエプソンは独自の技術思想である「省(省エネルギー)・小(小型化)・精(高精度)の技術」を核に、革新的な製品開発に取り組んできました。現在では、2050年までに「カーボンマイナス」と「地下資源消費ゼロ」の実現を目指す「環境ビジョン2050」を掲げ、経済活動と環境負荷の低減を両立する取り組みも進めています。

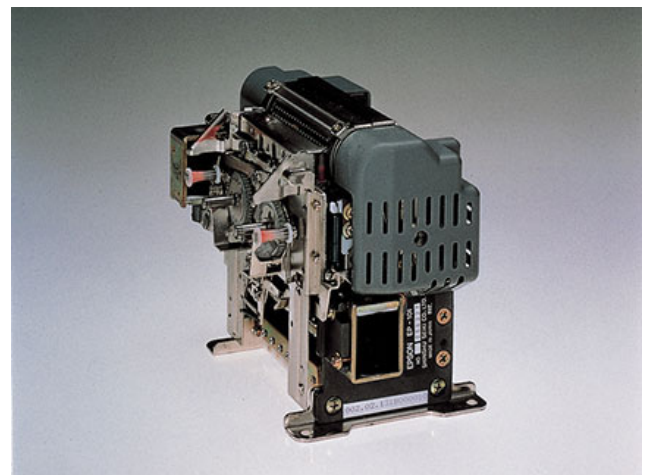


図2 小型軽量デジタルプリンタ「EP101」

(出典：セイコーエプソン株式会社, <https://qr.paps.jp/i0XPS>)

3. 見学内容

今回見学させていただいたのは、エプソンミュージアム諏訪の創業記念館とものづくり歴史館です。以下にその内容をご紹介します。

創業記念館では、セイコーエプソンの創業からの歩みを窺い知ることができます。この施設は、大和工業創立当時の建物で、かつては社長室などとして使用されていました。2022年にセイコーエプソンが創業80周年を迎えたのを機に、当時の史実や製品、それらにまつわるストーリーを伝える記念館としてオープンしました。館内には、初期の歯車式機械時計から、水晶振動子を用いたクォーツ時計、

そして液晶技術によるデジタル時計まで現物やレプリカが展示されており、企業の技術と時計の歴史を同時に学ぶことができます。特に印象的だったのは、1963年に製造された「プリンティングタイマー（図3）」です。これは1964年の東京オリンピックにおいて競技記録システムとして使用されたもので、競技タイムの計測とその結果の印字を同時に行うことができる、当時では画期的な装置でした。この製品が、セイコーエプソンがプリンター分野に進出するきっかけにもなりました。



図3 プリンティングタイマー

次に、ものづくり歴史館では、セイコーエプソンがこれまで生み出してきた製品や技術の展示に加え、現在や今後の取り組みについても学ぶことができます。セイコーエプソンが掲げる「省・小・精の技術」をベースに時計やプリンター、プロジェクター、マイクロデバイスなど、様々な製品に応用された技術力が紹介されています。特に興味深かった展示は、環境活動の象徴的製品「Paper Lab（図4）」です。この製品は使用済みの紙をリサイクルして、その場で新たな紙を再生できる装置であり、機密抹消やCO₂削減といった観点からも注目されています。このように単に印刷するだけではなく、印刷後の紙の再利用にも取り組む姿勢から、セイコーエプソンの環境への責任感と革新性を感じることができました。

以上のように、創業記念館・ものづくり歴史館の見学は、セイコーエプソンの歴史・技術・未来への展望を五感で体感できる、非常に価値ある機会でした。予約が取りづらい

人気施設のことですが、精密工学会会員の皆様もぜひ一度足を運び、見学されることをお勧めいたします。



図4 Paper Lab稼働中の様子

4. 学生に向けて

施設見学終了後のインタビューでは、学生に向けた貴重なご助言を頂きました。学生会員の皆さんに期待することとして、好奇心と探求心を持ち続ける姿勢、多様な視点を受け入れる柔軟さ、そして実践を通じた学びの重要性を語って下さいました。さらに、倫理観と社会的責任を持って技術を社会に役立てようとする意識も求められているとのことでした。こうした姿勢こそが、セイコーエプソンの「創造と挑戦」、「誠実努力」という理念を支えているのだと強く感じました。これらの言葉は私たち学生が日々の研究や学びにおいて常に意識し、実践していくべき大切な方針になると感じました。

5. おわりに

今回の見学を通じて、セイコーエプソンが創業以来大切にしてきた「省・小・精の技術」や、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを実際に肌で感じることができました。歴史ある製品や先進的な技術の展示を通じて、ものづくりへのこだわりと未来に向けた確かなビジョンが力強く伝わってきました。

最後に、お忙しい中、本取材にご協力いただいたセイコーエプソン株式会社様、そして当日長時間にわたり丁寧にご案内くださった腰原部長、土屋課長に改めて、心より感謝申し上げます。